

# ようこうだより

## 2018年度

### 平成30年4月



# 「GOODJOB」



# OPEN





# 「館邑会の今昔」

## 理事長挨拶

昨年の11月11日山本正理事長がご逝去されました。急遽、残任期間の理事長を拝命いたしました。私は、山本さんの前に3年間理事長に就任しておりましたので、今回2回目の就任であります。ありがとうございます。皆様よりしくお願いいたします。

さて、社会福祉法人館邑会は文字の通り、館林市と邑楽郡の地域福祉を担う為に、昭和56年4月に通所授産施設の「陽光園」から始まりました。それまでは、館林市立養護学校（現：群馬県立館林特別支援学校）を卒業した子供達の行き先がありませんでした。

た。館林市内邑楽郡内の障害を持った子供たちは学校を卒業したら家庭に戻るしかありませんでした。なんとか、卒業後も安心して通える所。軽作用等を行って作業工賃を稼いだり、たとえ障害が重くとも毎日元気に登園して一緒に自立訓練を受けられるそんな施設ができることを多くの保護者たちが望んでいました。当時、館林市立養護学校でPTA会長をしていた私は、初代理事長を勤めた多田一雄さん、前理事長の山本正さん達と当時群馬県議会議員の谷津義男さん（現館邑会理事）に協力を頂きまして、陽

光園を創ろうと努力してまいりました。すると、大変ありがたい事に、館林市PTA連合会様・邑楽郡PTA連合会様を通して、施設を創ることに賛同された地域の皆様から100円募金を頂くことが出来ました。そのありがたい100円募金の輪は、地域の高校生たちにもまで広がり、心のこもった募金が集められました。その募金は陽光園建設の為に大切に使用させて頂きました。こうし

て館邑会事業所第1号の陽光園が誕生いたしました。

当時ご協力いただいた皆様、本当にありがとうございました。うございました。

それから37年が経過した今年（平成30年）4月、7つ目の事業所「GOOD JOB（グッドジョブ）」を開所いたしました。社会福祉法人館邑会は地域の皆様のニーズに沿った社会福祉事業を提供しております。

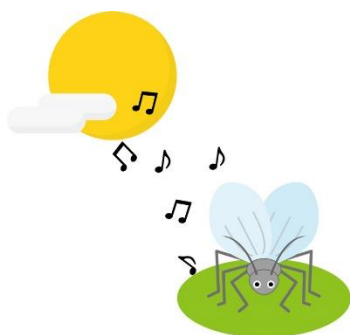
GOOD JOBでは就労継続支援B型のサービスを提供します。こちらでは比較的障がいの方が多く利用されています。場所は館林厚生病院のすぐ南側で交通の便がとても良く、自主通園される利用者にとって大変都合の良い所です。

今後、館邑会では37



年経過し老朽化した陽光園の建て替えについて検討してまいります。何よりここを利用される皆様が気持ち良く安全に使える建物を建設したいと思います。是非今後とも社会福祉法人館邑会を暖かく見守って頂きますようよろしくお願いいたします。

理事長 山川 博



# 仲間とつながり 大きな力

## 陽光園

陽光園では、平成30年9月現在60名の方が登録されています。利用者

者の皆さんは、館林市、邑楽町、板倉町、明和町、千代田町、大泉町と広範囲にわたり登園しています。一日が利用者さん

にとって充実した一日となるよう、一人ひとりに役割があり活躍の場があり、落ち着ける居場所がある、そんな園生活がおくれるような活動を目指しています。

日中活動では、東京メトロ・警視庁職員宿舎の枕カバー伸ばしを行っています。全ての工程を一人でやるのではなく、出来る人が出来るところまでを行い、検品・仕



また、ダンボールの組

み立て作業では、材料を足元の不安定な利用者さんへ利用者さん自ら運んであげたりと、お互いを思いやるほのぼのとした様子がみられています。また、分別作業では、剥がしやすいように小さめにカットしたりする事で、作業が出来る

た喜びや達成感を得る事で次のステップにすすみ大きな力となり、「出来たよ！」と自信に満ちた笑顔を見せてくれます。

職員手作りの工夫を凝らした治具作業では、集中して取り組んでいる姿もみられます。

園外活動では、作業を頑張っで行いマイクロバスで気分転換や、少数でのプチ山登りでの体力発散や自然との触れ合いなど行っています。



また、地域の公園や公共施設の体育館を利用

して体力保持のための散歩や軽運動など無理のないよう利用者さん一人ひとりにあったペースで行っています。公園内を散歩することによつて、地域の人たちとの挨拶も自然と「こんにちは」と笑顔を見せています。

園外活動では、作業を頑張っで行いマイクロバスで気分転換や、少数でのプチ山登りでの体力発散や自然との触れ合いなど行っています。



『からふる』で作っているパンやクッキーを館林市内や邑楽町内の保育園へ『おやつ』として配達の仕事もしています。そして、川俣駅の『メイちゃん家』にも毎週木曜日に楽しみの一つとして配達に行っています。

配達先の方からの「ご苦労様です。暑かったでしょう」と声をかけられると、思わず笑顔になり「頑張るぞ。」と活動意欲とつながります。

一人ひとりが持っている力が大きな力となり、成功体験を積み重ね自信へとつながる事。得意な事をひき伸ばし、『できる』事を見つけていきながら園での仲間との生活が楽しく充実した場所になって欲しいと思います。



生活支援員  
勤続17年 齋藤 典子



# 楽しい生活空間を

## 第二陽光園

主体性を高め、その人に合った暮らしを追求する。自立を目指し、個々の生活空間を含めた環境作りや年齢を考慮した健康管理に重点をおいて支援をしています。支援員は、利用者が必要とされていることを実感できるように日中活動や生活の場を提供していくことに努めています。

利用者の健康と安全を守るとともに、利用者や家族の願いや希望を伺いながら利用者の日常生活に必要な支援をしています。

一人の社会人として、働く喜びが得られるようサービスを提供して

います。現在では主に分別リサイクル、ネジの袋詰めの仕事を行っています。



一人ひとりが文化的で生きがいのある生活が送れるように、文化・スポーツ活動、地域の人たちとの交流などを通じて、利用者が主体的に取り組めるよう支援し

ています。

日中一時、短期入所サービスも行っています。障害者の行動障害、生活習慣の乱れ等何かしらの理由により、地域社会での生活が困難な人たちの受け入れ、その改善に寄与出来る様に支援をします。

なお、支援の実施に当たっては、積極的にサービス等利用計画を活用し、整合性を持ってサービスの提供を行います。家族の方々に対してのレスパイトサービス（休息）の役割も担っています。



私たち職員一同、自己決定・自己選択を尊重し、常にご本人の立場に立ったサービスを提供するという考えのもと、皆様が地域の一員として、豊かで充実した生活を送っていただけるよう、自立と社会参加の促進の為、「ノーマライゼーション」の理念の実現に向けて積極的に取り組んでいきます。

これからも、地域に根ざした施設として、また皆様に愛され信頼され



る施設として歩んできたと思いますので、今後ともご支援ご協力をお願い致します。

主任 生活支援員  
勤続18年 飯塚 利幸



# これからも 一緒・・・ ふらっぐ

ふらっぐは、今年で、9年目。来年度は、10年目の節目を迎えることになりました。

一年ずつ、年を重ね、新しい仲間との出会い・仲間の飛躍の旅立ちを喜び、「働く」を通じて、仲間と成長を共に歩んできました。

ふらっぐの1日は、早く、パンの焼ける匂いからスタートします。仲間の出勤時間は、それぞれであり、仲間に合わせたスケジュールが決められています。公共の電車・バスを利用し、自主出勤をすすめて、今では、バスの運転手さんと、顔なじみになっています。

時には、お休みだと知らず、いつものバス停にいないと、心配の連絡が、バス会社から連絡を頂くこともあります。



なにげない日常の生活の中で、地域に自然に溶け込んでいる仲間たちがいまいます。いつも、きれいにして

くれてありがとう。」つつじが岡公園を清掃する仲間に言葉を下さる老夫婦。

「ふらっぐのパンは、おいしい。子供も大好き。」と、遠方からパンを買いに来て下さるお母さん。「クッキープレゼントで・・・」照れくさそうな男子中学生。

「会議があるので、おいしいお弁当をお願いします。」役場からの注文。たかさんの「ありがとう」を頂いて、毎日歩んでいます。

ふらっぐへの「ありがとう」を生み出すのは、ひとり、1人の仲間の力です。ひとりの力は、小さいけれど、協力し合えば大きな力となって、立派な仕事として成り立ちます。

また、同じ法人の仲間として、陽光園・第二陽光園、仲間の力も忘れて

はいけません。プラスチック・リサイクル・配達・・・どれも大切な仕事です。

お互いの事業所の強みを生かした、取り組みを一緒に行い、みんな地域の中での「はたらき」をつくりだしていただけるよう考えています。



もう一つ、ふらっぐとして、大切に考えていることがあります。

小・中・高学生（支援学校・学級）を含め、将来の選択肢の一つとして、ふらっぐのような働

き方があることを知ってもらうこと。学生の時代から「働く」について考えてもらえる場所でありたいと考えます。

「ういず」の子供さんが夏休み期間、昼食のランチを兼ねて見学に来てくれました。世代間を越えた交流を今後も続けていきたいです。

これからも、ふらっぐは、たかさんの人々に支えられて歩んでいきます。

一緒に問い、考え、歩んでいく・・・時に泣いて、時に笑って・・・でこぼこしながらも楽しく毎日をお過ごし場所。

「ふらっぐ」でありたいと願います。

サービス管理責任者  
勤続20年 松田 育子



## 地域生活支援にかかわって

### てんしやば

今年度、第二陽光園よりグループホームへと異動となり、半年がたちましたが、その中で私自身を感じたことを述べたいと思います。支援員は、ホームで生活している利用者さんの、生活全般を支援しています。利用者さんを各々が在籍している事業所に送り出した後、何か連絡事が生じた場合には、



そのやりとりを行うことがあります。また通院等、医療機関とも連絡をとり合います。その他にも、利用者さんが日常的に利用するお店やバス等の公共交通機関の人達とも、利用者さんを通してお話する機会も多くあります。休日には外出の計画を立てて、ドライブや買い物等、利用者

さんのニーズに対応し、自分で出かけられる人は、自分の行きたいところへ外出し、買い物などをとおこなっています。また、ヘルパーさんと外出することもあり、より個別ニーズに合った、外出、選択が広がっています。支援員も利用者さんの外出先の店員さんやヘルパーさんなどとも情報交換を行い、利用者さんが外出先で困ったりすることがないようにしています。ホームという小規模単位での運営というメリットを



生かし、よりきめ細やかな対応を支援員も常にかんがっています。こういったように、利用者さんの生活の広がりとともに、利用者さん自身の人と人との関わり、そして支援の幅はどんどん広がっていきます。多くの人達の関わりの中で生活していくということ。これは私達、社会の中で生活を送る者として、ごく当たり前のことなのですが、地域生活支援に携わっていく中で、改めて考えさせられる機会を得たように思い



ます。また今後は利用者さんが地域生活を送っていく上で、より便利になるように利用者さんを中心としたネットワーク作りも必要になってきていると強く感じています。地域の中での何げない日常を、ごく普通に支えていく。そんな支援を目指し精進していきたいと思います。今後とも皆様のご指導頂けるよう、よろしくお願ひします。



※写真は思い出のスタッフです。

主任 生活支援員

勤続18年 前山 秀邦

# ほっともっとう

## 明るい未来へ

### ほっと

館林邑楽相談支援センターほっとは、館林市苗木町の館林市総合福祉センターの2階で運営しています。所内には空間を分けた小さな相談室と、広めの空間での相談室があります。

ほっとには平成29年度現在、約670人の相談者があり、所属する相談員9名、療育相談員1名で、相談者の支援をさせて頂いています。

ご相談内容は様々です。福祉サービスのご利用について、これからの生活について、就労について、日常生活を送る中での悩みなど多岐にわたっています。これまで

の生活歴、現状の生活について伺い、現状抱えている課題の乗り越え方を一緒に考え、ご本人が望む生活の実現へ向け支援させて頂いていただきます。



ご本人が望む生活を実現するため、また課題を乗り越えるために福祉サービスを利用するうえで、地域の障害福祉

事業所、行政、医療など多種多様な関係機関との連携は欠かせません。お互いがそれぞれ情報提供、連携を図り、相談者の望む生活の実現に向けてチームとして支援を行っていきます。

ご来所いただいたあの相談者から以前「この一枚の扉を開けることが重かった」と伺ったことがあります。悩みを抱えた相談者にとって「相談する場所に向くこと」「自体ハードルが高く、相談支援事業所自体がまだまだ「近くて遠い場所」なのだと感じました。我々相談員は「重く感じる扉」をやつとの思いで開けてくれた相談者にとつて、少しでも「相談しやすい場所」であるよう努めていこうと思っています。

「意思決定支援・自己決定」が叫ばれる昨今。

相談いただくことも一つの自己選択であり、相談しないこともひとつの選択と 생각합니다。

自ら抱える不安を他者へ伝えることは複雑な気持ちであると思いましたが。相談者としても不安や期待が入り混じっているかと思えます。

相談することを選んだくださった相談者の期待に応えるべく支援をさせて頂いていますが、必ずしも最短・最善の支援が提供できるとは限りません。相談者の人となりや違い、希望や課題もそれぞれ。支援を進めるペースも様々。支援を重ねて希望する生活や目標、課題の解決に近づいていく道のりは一つとして同じということはありません。思い描いた目標まで

「予定通り」に辿り着けないこと、遠回りになる

ことも度々あります。そんなときには今いる場所を俯瞰してみます。別の角度から眺めて直してみたり、新たな起点を持つことを心掛け、再度相談者とともに「これからの生活、これからの生き方」について考え直していきます。

「我々相談員の業務は常に利用者さんの伴走者であるべきだ。」当事業所の上司から以前伺い、今でも私が大切にしている言葉です。今後も相談者さんが進む方向を一緒に向いて、同じペースで側にそつと寄り添える存在になれるよう努めていきたいと思っています。

相談支援専門員  
勤続5年 茂木利江子



# 活動を通して体験する

## ういず

今年度から、ういずでは中学生のお子さんの活動場所として、主に陽光園やG.O.D J.O.Bの一室を借りて同年代同士の関わりを意識しながら活動を行ってきました。特に夏休みは、普段よりも、ういずで活動する時間が長いいため、より同年代での関わりもより深くなりました。今まで、ほとんど会話をしなかったお子さん同士が、何気ないことがきっかけで会話が生まれ、楽しそうに談笑する様子も見られました。

中学生になつてお子さん達それぞれが大変だったことは夏休みの宿題の量の多さでした。お子さんによっては、その日に自分で取り組む内容を決めたり、一週間毎に行う宿題の計画を職員と一緒に立てたりと、自分のペースに合わせて頑張っていました。また、夏休みの活動はお子さん達と職員で相談して計画を立てるというも行いました。

自分達で活動内容を相談して決めてみよう

と伝えると、始めは戸惑った表情を見せていましたが、今までにやったことのある活動を思い出して「お菓子作りをしたい」「○○に行きたい」と自分から色々な意見

を出してくれました。自分たちで計画して「できた、楽しかった」経験を重ねていくことが、次の学びに繋がっていくことを感じました。

小学生のお子さん達は、冷やし中華やおやつ作りを行いました。

冷やし中華作りでは、前にも何度か行っている活動なので、作り方を見ながら、慣れた手付きで作るお子さんが多く、また、初めて作るお子さんには、他のお子さんが声を掛け、教えていることもありました。



おやつ作りでは、用意した作り方を声に出し

て読みながらパフェを作りました。



また、パンを買いにふらつくにも行きました。

好きなパンを自分で選んで買って、おいしく食べるという経験は、お子さん達が好きな活動の一つです。真剣な表情でパンを選んで、自分でお金を払います。みんな揃って食べ始めると、「おいしいね」と言いながら、楽しそうに話をしていました。帰り道では「私が食べた美味しかったよ、また行こうよ。」

「次にパン買いに行くのは、冬休み？」と待ちきれない様子のお子さ

んもいました。

このように、ういずではお子さんそれぞれの学年に合った活動を意識して、毎日のスケジュールや、季節事に楽しめる活動を計画しています。うれしそうなお子さん達の笑顔を見る時、計画してよかったと思う瞬間です。

これからも、活動を通してさまざまな体験を重ね、お子さんも職員も成長し続ける「ういず」を目指していきたいと思えます。



保育士  
勤続6年 赤坂 知美



# 新たな 想い 新たな 広がり

## GOOD JOB

『ふらつく』が開所したのが平成21年10月、その当時は利用者定員30名、職員8名の事業所でした。

それから約8年の間に就職者を20名ほど送り出すとともに、登録利用者さんは60名迄増えて、職員数も20名ほどの事業所になりました。様々な作業種も増えておこなう中で、作業体制、職員体制、移動車両の配車など、大人数ならしまいました。

そのような状況の中、ふらつくでは一年間定期的に職員勉強会を開催し、今後の事業展開、

その際のイメージ・思い・不安・期待など・・・仕事帰りに職員が残って話し合いを重ねてまわりました。

そして平成30年4月、館林市成島町に障害福祉サービス事業所『GOOD JOB』（グッドジョブ）就労継続支援事業B型を開設いたしました。

『ふらつく』で起こっていた様々な問題を解消し、事業所を広げたことでの協力体制は存続しながら、よりスムーズに、より密に、そしてより幅広く活動することができると思っております。

ます。



### 『GOOD JOB』 基本理念は、

「知る」「得る」「つなげる」です。

様々な経験を通していろいろなことを知り、そこで得た学びを次のステップにつなげていく。その基本理念に基づき、日々の作業だけではなく、そこに伴うルールやマナー、日常生活における悩みや葛藤など少人数のグループワーク

などを通じて同じ悩みを共有し、話し合い、解決する機会を設けていこうと考えております。

そして、グループワークでのコミュニケーション経験を積み、他者と関わる中での仲間意識を持ち、仲間と共感しお互いに理解していく中で、自己評価や自己肯定感を高めていきたいと考えております。



日々是好日（にちにちこれこうにち）良いも悪いも一日は一日・・・今日という日を自分のできる範囲で一生懸命に生き、楽しみ、そこで何か気づき、学び、明日につなげていく・・・

その先に、自分らしく働き、自分らしく生きる姿が見えてくるのかなと思っております。

今後も利用者さん、会社関係の皆さん、職員、GOOD JOBに関わるすべての方と、明日につなげる、明日につながる活動を進めていきたいと考えております。どうぞ『GOOD JOB』をよろしく願います。

サービス管理責任者  
勤続17年 鰐石 英男

〔表彰披露〕

◇群馬県知的障害者福祉協会 永年勤続表彰(10年)

GOOD JOB 笹崎 拓未 職業指導員

◇群馬県手をつなぐ育成会 永年勤続表彰(8年)

陽光園 若旅 恭美 生活支援員  
GOOD JOB 荒井 好香 生活支援員

〔寄付金・寄贈品〕(平成29年7月〜平成30年6月)

◇法人本部

館林西ロータリークラブ 様

館邑会後援会 様

150,000円  
50,000円



福よし様  
1,000,000円  
2018年 3月

田部井 健二様  
山本 正 遺族様

5,000,000円



◇陽光園

田畑 明 様  
館林市手をつなぐ育成会 様  
229,000円

◇第二陽光園

川島 康宏 様  
館林市手をつなぐ育成会 様  
130,000円

◇てんしやば

館林市手をつなぐ育成会 様  
51,224円

ご厚情に心より感謝申し上げます。



平成29年度 財産目録  
(平成30年 3月31日現在)

(単位:円)

貸借対照表科目	金額
I 資産の部	
1. 流動資産	
流動資産合計	343,243,411
2. 固定資産	
(1) 基本財産	
基本財産合計	345,483,211
(2) その他の固定資産	
その他の固定資産合計	243,348,277
固定資産合計	588,831,488
資産の部の合計	932,074,899
II 負債の部	
1. 流動負債	
流動負債合計	40,728,308
2. 固定負債	
固定負債合計	62,219,653
負債の部の合計	102,947,961
差引純資産	829,126,938





苦情受付処理結果

平成30年9月30日現在

事業所名	受付時期	苦情の内容	解決結果	解決レベル
第二陽光園	H29.11.30	短期入所利用後、衣類が1点足りなかった。一晩中騒ぎ、日中の事業にも通えなくなると連絡があった。	入所者と洗濯した衣類、洗濯室に保管されている衣類を全て確認し、本人の衣類を見つけ出して保護者に返却した。	サービス管理責任者 施設長
第二陽光園	H30.8.7	日中一時を利用して帰るときズボンが濡れている時があり、車を汚してしまった。	帰る前にトイレ誘導と、オムツが汚れている場合は交換する事を徹底する。	サービス管理責任者 施設長
第二陽光園	H30.8.10	足の爪をいつ切ってくれるのか待っていたが、いつまで経っても切ってもらえないので電話したということだった。	連絡があったあとの利用の際に足の爪切りを行った。今後何か要望があったら直接職員に伝えてもらう。	サービス管理責任者 施設長
第二陽光園	H30.8.10	帰省のため迎えに来て、居室の掃除をしていると、床や衣類などが濡れていることがあった。息子がやるとは思えないので、原因を教えて欲しい。	他の人の部屋に入り、テレビのリモコン、枕、布団などを持ち出して濡らしてしまう利用者いるので、その利用者の行動を把握すると共に見守りを強化する。また、居室を使用しない時は施錠するようにする。	サービス管理責任者 施設長
第二陽光園	H30.8.25	外出させるため園に来園した際、居室内の壁に手の指が入るほどの穴がいくつも空いていた。いつ頃から穴が空いていて放置されていたのかの説明をしてほしい。	本人の拘りで壁に穴を空け、少しずつその穴を広げてしまったことを説明し、穴が空いた力所には早急に化粧ベニヤを貼って修繕した。	サービス管理責任者 施設長
第二陽光園	H30.9.19	短期入所利用後、荷物を確認したら、汚れた衣類と洗濯してある衣類が混ざっていた。また、受給者証が入っている袋が、要求したバッグの中に入っていないと探すのが大変だった。	改善策を申し上げたがどれも承諾していただけなかった。	サービス管理責任者 施設長
第二陽光園	H30.9.26	帰省時に送迎してもらいたいという要望があった。	送迎サービスの利用ができる事業所をほつと経由で紹介してもらう。	サービス管理責任者 施設長

平成29年度 館邑会事業報告  
(H29.4.1～H30.3.31)

1. 役員会等の状況

開催日	事業名	内容
4月1日	第1回理事会	理事長の選任
6月9日	第2回理事会	平成28年度決算、理事監事候補者選任
6月23日	第1回評議員会	平成28年度決算、理事選任
6月23日	第3回理事会	理事長の選任
7月19日	第4回理事会	評議員交代、第三者委員交代、マイクロバス購入、スプリンクラー設置について
7月19日	第1回評議員選任解任委員会	評議員の選任
9月11日	第5回理事会	マイクロバス購入について
10月31日	第6回理事会	スプリンクラー指名業者選定、給与規定、育児介護休業労使協定について
11月24日	第7回理事会	新事業所の認可申請と候補地、欠員理事の補充について
11月24日	第2回評議員会	新事業所の認可申請と候補地、理事選任
11月24日	第8回理事会	理事の選任
12月12日	第9回理事会	スプリンクラー設置工事契約、補正予算、理事候補選任、評議員候補選任
12月12日	第2回評議員選任解任委員会	評議員の選任
12月18日	第3回評議員会	補正予算、理事選任
2月10日	第10回理事会	車両購入業者選定、給与規程定・臨時職員規程変更
3月20日	第11回理事会	平成30年度事業計画・予算、車両購入契約、新事業所管理者選任、規程の変更、補正予算等
3月27日	第4回評議員会	平成30年度事業計画・予算、新事業所の認可申請と候補地、理事選任

2. その他会議やイベント

開催日	事業名	内容
8月2日	館邑会後援会	決算・予算、事業報告、役員改選
8月30日	第三者委員会	苦情解決について
10月21日	秋まつり	悪天候により中止（規模縮小して利用者の食事会）
2月10日	新年会	

30年度社会福祉法人館邑会の役員

- |   |                               |   |  |
|---|-------------------------------|---|--|
| <p>4. 田沼俊彦<br/>栗原則雄<br/>田中美喜雄<br/>平野一男(司法書士)<br/>石村澄江</p> | <p>3. 監事<br/>黒田香代美(陽光園所長)</p> | <p>2. 理事<br/>山川 博(理事長)<br/>太田敏雄<br/>谷津義男<br/>石村 實<br/>山本 樹<br/>多田善洋(県議会議員)<br/>黒田香代美(陽光園所長)</p> | <p>1. 評議員<br/>前山秀樹(善長寺住職)<br/>三田正信(館林市社協長)<br/>峯崎俊雄(板倉町社協長)<br/>立木留吉(明和町社協長)<br/>久保田 馨(千代田町社協長)<br/>神長泰弘(大泉町社協長)<br/>田部井猛夫(邑楽町社協長)<br/>安樂岡信子</p> |
|---|-------------------------------|---|--|

前館邑会理事長の山本正さんが去る平成29年11月11日ご逝去されました。82歳でした。山本さんは館邑会開所当初から理事を務め、長きにわたり館邑会にご支援いただきました。ここに長年のご厚情に対し深く感謝申し上げます、謹んでお悔やみ申し上げます。

編 集 後 記  
 監査などに追われ気づけば秋まつり目前。  
 昨年より編集に携わるようになったが1年を振り返るいい機会となっている。自分が経験してきたことがすべて生かされた1年であった。後悔や反省は腐るほどあるがそれも人生。また今日から初心を忘れずに頑張りたい。